



「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界遺産登録決定！

国土文化財課世界遺産推進室（☎017-718-1389）



北海道・北東北の縄文遺跡群

北海道・北東北の縄文遺跡群は、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産で、北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する縄文時代の集落や墓地、祭祀・儀礼の場である環状列石など17の遺跡で構成されています。

北海道・北東北では、ブナを中心とする落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では暖流と寒流が交わり豊かな漁場が生まれましました。このような自然環境のもと、人々は食料を安定的に得ることができ、今から約1万5千年前に土器を使用し、定住を開始しました。その後、1万年以上の長きにわたって農耕に移行することなく、気候の温暖化や寒冷化などの環境変化にも巧みに適応しながら、採集・漁労・狩猟による定住を継続しました。

特別史跡 三内丸山遺跡

青森市大字三内字丸山

紀元前3,900年～紀元前2,200年（約5,900～4,200年前）／縄文時代前期～中期



陸奥湾をのぞむ段丘上に立地する国内最大級の集落跡で、竪穴住居跡や大型竪穴住居跡からなる居住域、墓域、貯蔵穴、掘立柱建物跡、捨て場、盛土遺構などから構成されています。

盛土遺構からは、土偶やミニチュア土器などの祭祀用の道具が多数出土し、祭祀・儀礼が継続して行われていたと考えられます。また、狩猟や漁労に関わる石器、多種多様な魚骨や動物骨、クリ・クルミなどの堅果類などの出土から、通年にわたり自然資源を巧みに利用していたことを示す重要な遺跡です。

史跡 小牧野遺跡

青森市大字野沢字小牧野

紀元前2,000年頃（約4,000年前）／縄文時代後期



八甲田山西麓に広がる台地上に立地し、環状列石を象徴とする祭祀遺跡。環状列石は、中央帯・内帯・外帯の三重構造の列石のほか、その周りに一部四重となる列石等が配置され、全体で直径55mと国内最大級の大きさを誇ります。

環状列石やその周囲の捨て場からは、土偶やミニチュア土器、400点を超える三角形岩版などの祭祀遺物が出土しています。小牧野遺跡は、環状列石の構築に関わる技術や規模からみても、地域の精神的な拠り所や祭祀活動の拠点であったことがうかがえます。

ユネスコの第44回世界遺産委員会で日本時間7月27日午後6時51分、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界遺産に登録すると決定しました。青森市に小牧野遺跡と三内丸山遺跡の二つの世界遺産が誕生しました。



祝「北海

10/2
(土)

世界遺産登録決定記念式典

場所 リンクモア平安閣市民ホール
内容 記念講演「縄文遺跡群の審査・評価を巡って」
縄文遺跡に関する活動発表



11/6
(土)

縄文シティサミットinあおもり

縄文都市連絡協議会に加盟する都市間の交流を図り、縄文文化を活用したまちづくりや、縄文文化の魅力を世界に発信するため、加盟首长による意見交換を行います。

詳細は本紙で随時お知らせしていきます。



縄文時代と世界史の比較年表

土器や弓矢の使用が始まり、定住化が進みムラが出現。	気候の温暖化が進み海面が上昇。貝塚が出現。	集落数が増え地域を代表する拠点集落が出現。	大規模な拠点集落が発達。	集落の分散化が進む。環状列石が出現。	遮光器土偶や土面など祭祀の道具が多く作られ、装身具類が多様化。	吉野ヶ里遺跡が繁栄する。
縄文時代			三内丸山遺跡	小牧野遺跡		
草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生時代
紀元前 約13000年	約9000年	約5000年	約3000年	約2000年	約1000年	約400年
世界のできごと						
トルコで最古の神殿が造られる（ギョベクリ・テペ）。	長江下流域で水稻耕作の開始。	中国文明の始まり。メソポタミア文明の始まり。	クフ王のピラミッド建設。	殷王朝の成立。	春秋時代。戦国時代。	

参考資料：世界遺産をめざす 北海道・北東北の縄文遺跡群